

令和4年度 すこやかメールマガジン 第822号【誰かの『傘』になる】3月9日配信

みなさん、こんにちは。県立生涯学習推進センターメルマガ担当です。

今週の月曜日は、このメルマガでもたびたび話題になる、二十四節気の一つ「啓蟄」でした。春の暖かさを感じて、冬ごもりしていた虫が外に這い出てくる頃のことです。まだ、虫にはお目にかかっていませんが、我が家の庭では福寿草が咲き始めています。朝のラジオでは、「バツケ（ふきのとう）」の話題もちらほら出ています。日中の気温も高くなってきて、春を感じる今日この頃です。

春と言えば、別れと出会いの季節です。さみしさとうれしさが混在する複雑な気持ちや、新しいことへの期待や緊張を抱く時期でもあります。

我が家の娘は、クラス替えというドキドキを抱えながらも、「春って、なぜか、何か欲しいものがあるわけじゃないけど、新しいものが欲しくなるんだよね」とウキウキしている様子でした。何か欲しいものがあるわけじゃないなら、「傘」はどうかと提案しました。なぜ、傘なのかという疑問がふと浮かんでくるかと思いますが、理由は2つあります。

1つ目は、諸事情により現在、娘は自分の傘がなく、家族の傘で間に合わせています。人のものであるという責任の軽さから、使った先で置きっぱなしにしていくことが何度かあり、自分の傘だったら大事にするかもと思ったからです。

2つ目は、7月クールのドラマ（4回司法試験に落ちた東大卒パラリーガルと1回で司法試験に合格した高卒の弁護士のコンビが、トラブルに挑むリーガル・エンターテインメント）での「傘」の話（真面目に生きる人々の暮らしを守る“傘”になろう）に感動したからです。

「誰かの『傘』になる」を、親の立場で考えるなら、晴れている時（子どもに悩み事などなく順調な状態）には『傘』は必要ありませんが、日差しが強すぎる時には必要です。また、他人には見えなくても雨に降られている（トラブル等で悩んでいる）、ずぶぬれになっている（立ち上がれないくらいに打ちのめされている）時に、『傘』を差し出せる親でありたい。そう思います。

そして、娘にもそんな人になってほしいという思いを込めて、誕生日には、「『傘』」を一緒に買いに行こうと思っています(^_^)

☆子育てに関する悩みを一緒に考えます☆

子育て電話相談「すこやかダイヤル」 0198-27-2134

☆メルマガへのご感想、アドレス変更・配信停止はこちらへ(^_^)/

kosodatem@pref.iwate.jp

★=====★

【発行・文責】岩手県立生涯学習推進センター

【HP】<https://manabinet.pref.iwate.jp/hp/>

【Twitter】<https://twitter.com/manabinetiwate>

★=====★